

安全上のご注意

本体に貼ってあるご注意に関するシールは、はがさないでください。

乳幼児の手の届くところには置かない。

また、いたずらに注意する。

やけど・けがなどのおそれ。

熱いものを入れた場合は、必ずコップを使って飲む。

本体から直接飲むと、やけどなどのおそれ。(断熱効果により、熱いものを入れても外側は熱くなりません。)

中せんは確実にしめ、必ずクローズボタンを押す。その後、本体を傾けたりして、内容物がこぼれないことを確認する。

しめかたが不十分な場合、振動や衝撃などで内容物がもれて、やけど・車内や衣服を汚す原因。

ドライアイス・炭酸飲料などは入れない。

内圧が上がり、中せんがあかなかつたり、内容物が吹き出たり、中せん・コップが破損して飛び散り、けがなどのおそれ。

牛乳・乳飲料・果汁などは入れない。

腐敗・変質の原因。また、そのまま長く放置した場合、腐敗・変質によりガスが発生して本体の内圧が上がり、中せんがあかなかつたり、内容物が吹き出たり、中せん・コップが破損して飛び散り、けがなどのおそれ。

みそ汁、スープなど塩分を含んだものは入れない。

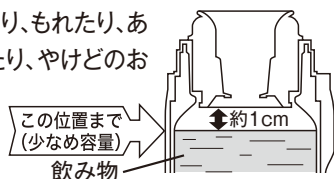
腐敗・変質・サビのおそれ。

お茶の葉・果肉などは入れない。

目づまりし、もれるおそれ。

飲み物の量は、図の位置までにする。

入れすぎると、オープンボタンがかたくなったり、もれたり、あふれたり、やけどのおそれ。



肩部分にヤカンなどをあてない。

転倒して、やけど・けが・傷や変形のおそれ。



本体を傾けた状態や、顔などを近づけた状態で、オープンボタンを押さない。

熱湯が勢いよく出て、やけどのおそれ。

注ぎ終わったら、本体を立てた状態にして、必ずクローズボタンを押す。内容物がもれるおそれ。

スポーツ飲料を入れた場合は、使用後、すぐにお手入れをする。

外出時など充分なお手入れができないうちでも、すぐに本体内側をよく水ですすぐ。カビの発生やサビや穴があくなど故障の原因

倒したり、落としたり、ぶつけたり、強い衝撃を与えない。

破損・保温(保冷)効果の低下・サビ・塗装はがれ・内容物がもれるおそれ。

缶ジュース、缶ビールなどを容器ごと入れない。

変形し、故障の原因。

自動車走行中は使わない。

やけど・車内や衣服を汚す原因。(また運転者の場合、運転への注意が散漫となり、非常に危険です。)

保温性能が低下したときは使用しない。

熱いものを入れると本体が熱くなり、やけどなどのおそれ。

コンロやストーブなど、火気のそばには近づけない。

やけど・変形・変色の原因。

飲み物の保温・保冷以外に使わない。

冷凍庫に入れない。

内容物がもれたり、破損のおそれ。

ベルトを持って振りまわさない。

人や物にあたって、けがや破損のおそれ。

本体外側が濡れている状態で、かばんなどに入れない。

サビ・においの原因。

かばんなどに入れるときは、本体を立てて入れる。

横にすると、もれるおそれ。

分解・修理はしない。

故障や事故の原因。

塩素系漂白剤は使わない。

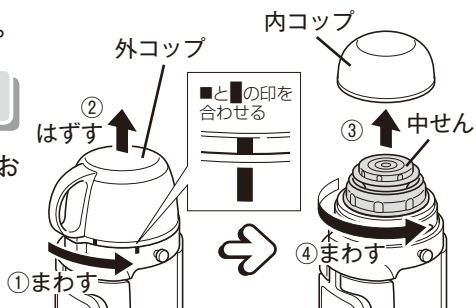
サビたり、穴があく原因。

使いかた

1 コップ・中せんをはずす。

はじめて使うとき

本体内側・中せん・コップをお手入れする。→P.7

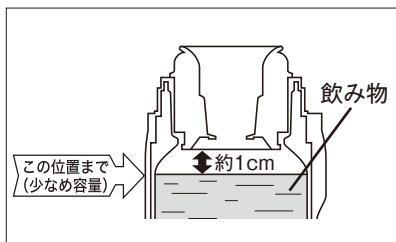


2 保温(保冷)効果を高めたいときは、少量の熱湯(冷水)を入れ、1～2分予熱(予冷)する。

予熱(予冷)後は、お湯(水)をすてる。

3 熱い(冷たい)飲み物を入れる。

- 飲み物は、入れすぎないように図の位置までにする。
- 大きな氷を入れるときは、押し込まず、小さくしてから入れる。
- 熱いお茶を入れると、お茶の色が変わることがあります。お茶のときは、中せんが目つまりするおそれがありますので、ティーバッグなどをおすすめします。

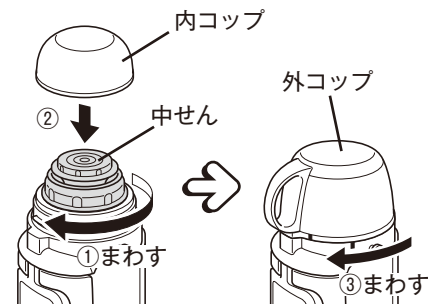


ご注意

本体外側にこぼれた飲み物は、必ずふき取る。

4 中せん・コップをしめる。

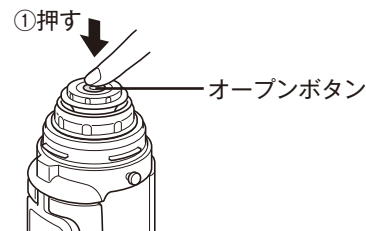
- 中せん・コップがまわらなくなる位置まで、確実にしめる。
- クローズボタンが押された状態になっていることを確認する。→P.5



5 コップをはずし、オープンボタンを押してから本体を傾けて、飲み物を注ぐ。

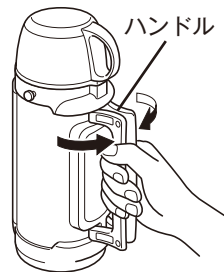
ご注意

本体を傾けた状態でオープンボタンを押さない。
熱い飲み物が勢いよく出るおそれ。



ハンドルの使いかた

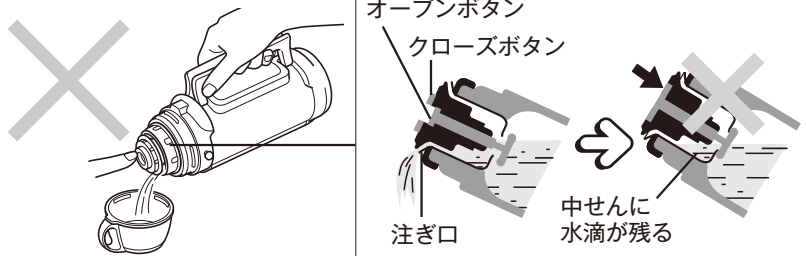
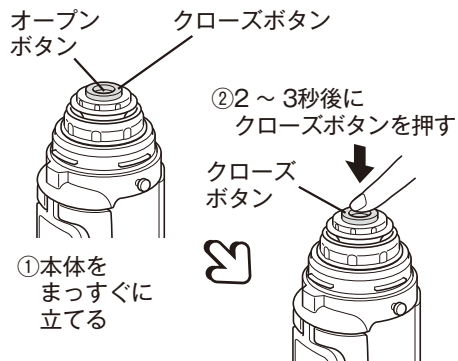
両側のハンドルを起こして、持つ。



6 注ぎ終わったら、必ず本体をまっすぐに立ててから、2～3秒後にクローズボタンを押す。

ご注意

本体を傾けた状態でクローズボタンを押さない。中せんの内部に少量の「水滴」が残り、持ち運ぶときなどに水滴がもれるおそれ。



7 コップをしめる。→P.4

コップの内側に残った「水滴」を振り切り、よくふいてからしめる。

ベルトの使いかた

ベルトの着脱のしかた

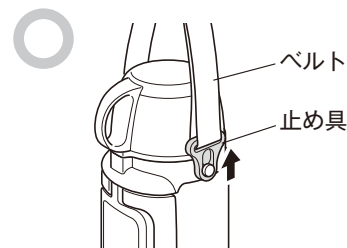
- ①ベルトの止め具の穴を、本体の突起部にはめ込む。
- ②ベルトの止め具を「カチッ」と音がする位置まで矢印の方向に引っばる。



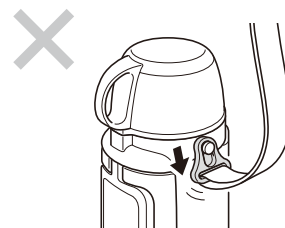
※取りはずしは、つけるときの逆手順で行う。

ご注意

- ベルトの止め具が矢印の方向を向いていることを確認してから、ゆっくり持ち上げる。

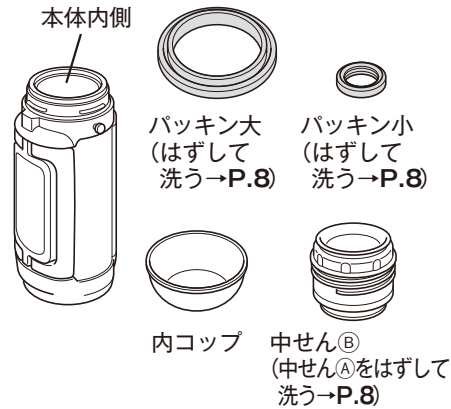


- ベルトの止め具が矢印の方向を向いた状態で、ベルトを引っ張らない。止め具が外れて落下し、けがをするおそれ。



お手入れのしかた

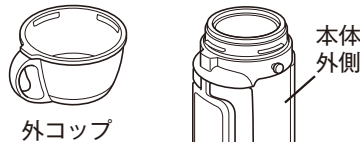
- ◆使用後は、必ずその日のうちにお手入れする。
- ◆洗剤は、台所用合成洗剤(食器用・調理器具用)を使う。
- ◆スポンジ・フキンはやわらかいものを使う。
- ◆においを防ぐために、こまめにお手入れする。



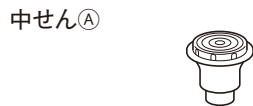
- ①洗剤をうすめた水またはぬるま湯で、スポンジを使って洗い、水で十分にすすぐ。
- ②十分に乾燥させる。

においを防ぐために

ご使用前や、お湯以外のもの(お茶や糖分を含んだものなど)を入れた後は、熱湯を入れて注湯をくり返し、充分にお手入れすると、においを防ぎ、清潔にご使用いただけます。



- ①洗剤をうすめたお湯にフキンをひたし、かたくしぼってふく。(丸洗いはしない)
- ②乾いたフキンで洗剤分をふき取り、乾燥させる。



- ①フキンをお湯にひたし、かたくしぼってふく。(丸洗いはしない。)
- ②乾いたフキンで洗剤分をふき取り、乾燥させる。

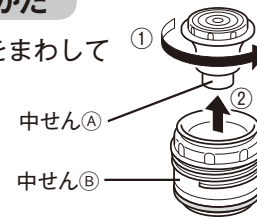
ご注意

- 本体・外コップの丸洗いはしない。
- シンナー類・クレンザー・漂白剤・化学ぞうきん・金属たわし・ナイロンたわしなどは使わない。
- 食器洗浄機や食器乾燥器などを使ったり、煮沸しない。熱湯を使わない。
- 中せんのパッキン大・パッキン小は必ず取りつける。→下記
- 長期間使わないときは、十分に汚れを落とし、乾燥させる。

中せんA・Bのはずしかた・つけかた

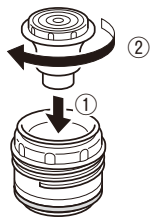
はずしかた

中せんAをまわしてはずす。



つけかた

中せんAを中せんBに確実にはめ込む。

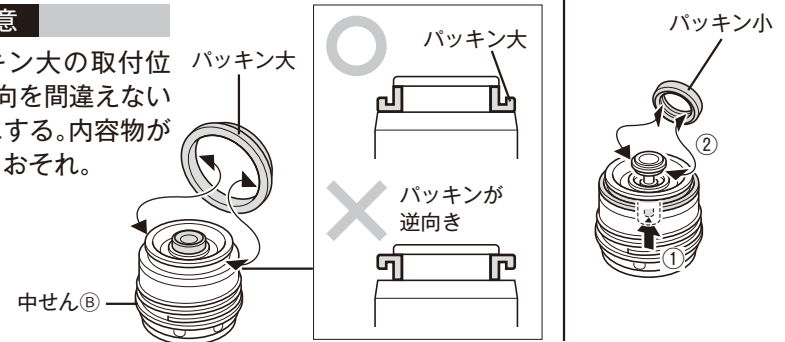


パッキン大・小のはずしかた・つけかた

つけるときは、奥まで確実にはめ込む。

ご注意

パッキン大の取付位置、方向を間違えないようにする。内容物もれるおそれ。



本体内側に汚れが目立ってきたときは…

「サビのような赤い斑点」や「ザラザラしたもの」の場合

「サビのような赤い斑点」や「ザラザラしたもの」は、水の中に含まれているミネラル成分(カルシウム・マグネシウム・鉄分など)です。

汚れが目立ってきたら、以下の手順でお手入れしてください。

- ①クエン酸(約10g)をぬるま湯でうすめて本体に入れる。
- ②2～3時間後にやわらかいブラシできれいに洗い、水で十分にすすぐ。
- ③十分に乾燥させる。

※クエン酸は、お近くのスーパーや薬局でお買い求めください。

※市販のポットおよびボトル洗浄剤は使わない。パッキンなどが傷むおそれ。

「茶しぶ」や「コーヒー」の汚れなどの場合

汚れは飲み物などに含まれているタンニンや油脂成分によるものです。ステンレスボトル用洗浄剤 TAA-A100(別売品)のご使用をお勧めします。

◆品番 TAA-A100 10g×4 包入り

お買い求めは、「消耗品・別売品のお買い求めについて」を参照してください。

➡裏表紙

不具合が生じたときは

こんなとき	ご確認ください	直しかた
中せんから飲み物がもれる。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 中せん・各パッキンが正しい位置、向きに確実にセットされていますか。 ▶ 中せん・各パッキンが損傷していませんか。 ▶ 飲み物を入れすぎていませんか。 ▶ 本体を傾けた状態でクローズボタンを押していませんか。 ▶ 中せんのオープンボタンを押した状態で、コップをしめていませんか。 ▶ 食器洗浄機や食器乾燥器などを使ったり、煮沸していませんか。→P.8 ▶ 落としたり、強い衝撃を与えていませんか。→P.2 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 確実にセットする。→P.4・8 ▶ 損傷しているときは、お買い求めの上、交換してください。→裏表紙 ▶ 入れすぎないようにする。→P.3 ▶ 注いだ後は、本体をまっすぐに立ててから、2～3秒後にクローズボタンを押す。→P.5 ▶ クローズボタンを押してから、コップをしめる。→P.5
オープンボタンが押せない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 飲み物を入れすぎていませんか。 ▶ 熱湯を入れて振動を加えると、オープンボタンがかたくて押せないことがあります。(無理やり押さない。) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 無理に押さず、1度中せんをはずして、飲み物を少量する。→P.3・4 ▶ 1度中せんをゆるめ、オープンボタンを押し、そのまましめ直す。→P.3・4
オープンボタンを押したときに「シュッ」と音がする。	▶ 空気が抜ける音で、異常ではありません。	
保温(保冷)が効いていない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 落としたり、強い衝撃を与えていませんか。→P.2 ▶ 熱い(冷たい)飲み物を入れていませんか。▶ 熱い(冷たい)飲み物を入れる。→P.3 ▶ 飲み物の量が少なくありませんか。少ないと、十分な保温(保冷)効果が得られない場合があります。 ▶ 寒冷地や周囲の温度が高い場合など、使用環境の厳しい状況では、十分な保温(保冷)効果が得られない場合があります。 	
本体内側や中せんから異臭がする。	▶ 汚れが付着していたり、飲み物を長時間入れたままにいませんか。	▶ お手入れする。→P.7～9
本体の底から水もれする。	▶ 本体を丸洗いしていませんか(丸洗いはできません。)	▶ →P.7・8